

同盟員細胞及び社学同に与える。

一九二七年二月十日、共産主義者同盟関西地方委員会

学友部

（編輯者）

Ⅰ 同盟を革命党に育てよ。

同盟員諸君、同盟を革命的に前進せしむるは、そのためには、我々は、大衆と他党派と、かちや、かち批判をまず謙虚に受け入れねばならない。そして、この批判にたゞおんこころの革命性をまず、我々自身もたねはらぬ。

我々同盟が、同盟だけが日本の革命を、現実に達成することが出来ると信じておられ、いかなる反動と弾圧と、大衆の批判に答えて、自らを奮起せしめざるを得ないことを、我々が正しく自覚するなり、我々は政治局面をはじめ、我々から細胞に至るまで、いかなる批判をも受け入れるゆとりをもつてはならない。我々の組織は小さく、我々の力量も十分ではないが、しかし、我々には、誤りを犯すことを恐れぬ、又、誤りを正す能力をもつてある。

我々の政治局面は、我々の細胞とみなし、また十分な指導を行なう得ているといふよりも、むしろ、然し、我々の細胞は、この我々の政治局面を失うわけにはいかない。

政治局面の中をめぐり、そのまわりを固く、團結し、その批判を、まともな、全取、受け入れる必要がある。批判の中には、敵意をもちたものや、標をはずしたものであるもの、然し、我々には、これらにも耳をかたむけ、その中から、日本革命のための何らかの教訓を學ぶことにはないか、我々、抗暴斗争と、その右の分派斗争をのりこえて来た。そして現在、再び、一つの試験に立たされてゐる。この試験にどうかゝつて、絶望や、こころいや、怠惰や、感情的混亂があらはれぬやうな努力をせよ。尙故なり、革命に勝つるは、尙存回、尙存回、いかに以上の試験の編成ではないか、最も大胆であり、革命的な同盟員は、この試験の中を、抱へば、必ずや、我々の

かすのでなく、その中から、徹底的に、革命のための教訓を、党を強めてゆくための教訓を學ぶこととしてゆくべきである。この様子を、この中から、我々、同盟員は自らを共産主義者同盟に育てよ、と信じて、我々、同盟を革命党に、よりあげてゆくことが出来るのである。

Ⅱ 政治的、全口状況の特徴。

現在、即ち、二月五日以降の全口状況の特徴は、それまでの感情的対立とテロから急激に、言論戦に入つて、いふことと、いふことである。

- ① だか同盟員は、ますます、いふこと、いふこと、変化を正しく把握し、自らを、この状況変化に対応せねばならない。感情的対立とテロという、極めて、即時的な対応から脱離し、自らを克服し、受け止めるべき。
- ② そればかりではない。すなはち、いふこと、いふこと、言論戦に有効に対応出来る能力をまずもつて、また、いふこと、この能力とは、個人的能力ではなく、すなはち、組織的なものである。
- ③ 全口的な、言論戦に対して、組織的に対応する能力をもたねばならない。そのためには、「我関」を活用し、全口的統一性を、各細胞がもたねばならないのである。

Ⅲ 組織的討論を進めよ。

細胞及び、社学同支部において、混雑し、いふこと、いふこと、傾向が生ずれば、非組織的傾向が生ずる。学友部は各細胞及び支部に対し、次の幾つかの指示を与える。

- ① 各細胞及び支部に対し、各細胞の機能を回復し、各細胞の討議に組織性をあたえ、各班活動の機能を回復せよ。
- ② 各細胞、班、支部は、この上で上級機関の指示と連絡をせよ。
- ③ 当面、細胞、班、支部の討論は、④ 党の討論、⑤ 党の討論、⑥ 大衆組織の性格を明らかにし、⑦ 三つの方向で

（編輯者）

